

得点	/ 20
----	------

氏名 _____

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。(20点)

現 金	当 座 預 金	普 通 預 金	売 掛 金
建 物	貸 倒 引 当 金	退 職 給 付 引 当 金	修 繕 引 当 金
商品保証引当金	売 上 割 戻 引 当 金	売 上	貸 倒 損 失
退職給付費用	修 繕 費	商 品 保 証 費	

- 1 決算にあたり、退職給付の見積もりを行った結果、当期の退職給付費用は¥ 300,000であった。
- 2 前期に保証書を付して販売した商品について、顧客より無料修理の申し出があったので、修理業者に修理を依頼し、代金¥ 80,000 は現金で支払った。なお、前期の決算で計上した商品保証引当金の残高は¥ 50,000 である。
- 3 建物の修繕工事を行い、代金¥ 900,000 は小切手を振り出して支払った。なお、工事代金の 20 %は改良のための支出と判断された。また、この修繕工事に備えて、前期に¥ 600,000 の引当金を設定している。
- 4 直近3か月（前期2か月、当期1か月）の福島物産に対する売上金合計が¥ 1,200,000 に達し、当社の割戻実施の条件（3か月間の売上が¥ 1,000,000 を超える顧客に対し、売上総額の 1.5 %相当額を支払う）を満たしたため、本日、当社の普通預金口座から所定の額を同社の当座預金口座に振り込んだ。なお、前期末の決算で、同社に対する売上割戻引当金を¥ 10,500 計上している。
- 5 得意先夕張商店が倒産し、同店への売掛金¥ 300,000 が回収不能であることが判明した。なお、このうち、¥ 150,000 が前期の取引であり、貸倒引当金の残高は¥ 100,000 である。

No.	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。(20点)

現 金	当 座 預 金	普 通 預 金	売 掛 金
建 物	貸 倒 引 当 金	退 職 給 付 引 当 金	修 繕 引 当 金
商品保証引当金	売上割戻引当金	売 上	貸 倒 損 失
退職給付費用	修 繕 費	商 品 保 証 費	

- 1 決算にあたり、退職給付の見積もりを行った結果、当期の退職給付費用は¥ 300,000であった。
- 2 前期に保証書を付して販売した商品について、顧客より無料修理の申し出があったので、修理業者に修理を依頼し、代金¥ 80,000 は現金で支払った。なお、前期の決算で計上した商品保証引当金の残高は¥ 50,000 である。
- 3 建物の修繕工事を行い、代金¥ 900,000 は小切手を振り出して支払った。なお、工事代金の 20 %は改良のための支出と判断された。また、この修繕工事に備えて、前期に¥ 600,000 の引当金を設定している。
- 4 直近3か月（前期2か月、当期1か月）の福島物産に対する売上金合計が¥ 1,200,000 に達し、当社の割戻実施の条件（3か月間の売上が¥ 1,000,000 を超える顧客に対し、売上総額の 1.5 %相当額を支払う）を満たしたため、本日、当社の普通預金口座から所定の額を同社の当座預金口座に振り込んだ。なお、前期末の決算で、同社に対する売上割戻引当金を¥ 10,500 計上している。
- 5 得意先夕張商店が倒産し、同店への売掛金¥ 300,000 が回収不能であることが判明した。なお、このうち、¥ 150,000 が前期の取引であり、貸倒引当金の残高は¥ 100,000 である。

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額	出 所
1	退職給付費用	300,000	退職給付引当金	300,000	139回 第3問
2	商品保証引当金	50,000	現 金	80,000	143回 第1問 - 2
	商品保証費	30,000			
3	建 物	180,000	当 座 預 金	900,000	149回 第1問 - 3
	修繕引当金	600,000			
	修 繕 費	120,000			
4	売上割戻引当金	10,500	普 通 預 金	18,000	148回 第1問 - 4
	売 上	7,500			
5	貸倒引当金	100,000	売 掛 金	300,000	
	貸倒損失	200,000			